

保護者対応場面の捉え方

— 架空事例役割演技と効果について —

○津江美和

(龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師)

研究の目的

日本における教師の役割は、子どもへの教育指導だけでなく、心理発達面への配慮、友人関係や問題行動への対処、保護者対応など、多岐にわたる。対象年齢が低い幼児教育は、特に保護者と教師の関係は深く、頻度も高い。若い保育者が保護者対応に苦手意識をもつことは多い。養成学校における「現実を垣間見る学習」が必要となろう。実習での学生の活動は教育技術が中心で、現場の教師が判断に迷い、心を悩ませることとは異なる。本研究では、保護者や子どもとの関りで教師が悩みそうな架空の事例(以降、事例とする)を取り入れた授業を行った。学生の保護者と保育士への内面理解がどう変化するかを探った。

方法

保育士養成学校で1年生(男子4名、女子25名)を対象に対面授業(50分×7限×2日)を行った。内容は、まず、事例②③④を読み感想を書いた。次に、6人グループで意見交換し、教師が解説を加えた。最後に事例場面を3人グループで役割演技した。所要時間は1日目10分+50分、2日目50分×2限である。

授業前後に事例①(tab1.)を読み、登場人物(母親と保育士)の内面を10項目(怒り、哀しみ、親しみ、イヤ、尊敬、不安、攻撃、焦り、自信、悩み)、5段階で評定した。

tab1. 質問紙で用いた架空の事例①

保育士Pは、今年度から4歳児を担当することになりました。5月のある日、降園後に掃除をしていると、A男の母親が話しかけてきました。「先生、A男は、このクラスになった途端、行儀が悪くなって困っています」

結果

事前と事後の評定を比較した。母親と保育士、10項目ごとに繰り返しのあるt検定(両側)を行った。

母親では「尊敬」で上昇の、「怒り」「イヤ」で下降の

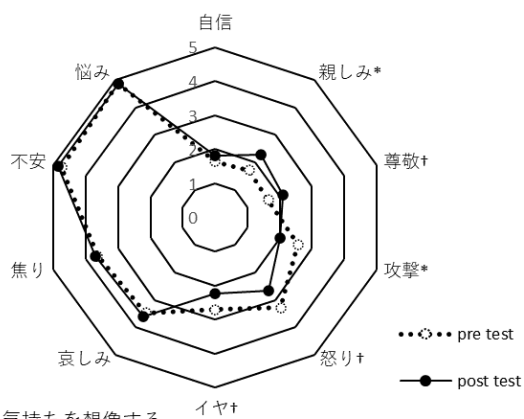


fig1. 母親の気持ちを想像する

有意傾向($p<.1$)が、「攻撃」で下降の、「親しみ」で昇の有意差($p<.05$)が見られた。

保育士では「攻撃」で下降の有意傾向($p<.1$)、「尊敬」で上昇の有意差($p<.05$)が、「親しみ」で上昇の、「怒り」と「イヤ」で下降の有意差($p<.01$)が見られた。結果をfig1.fig2.に示す。

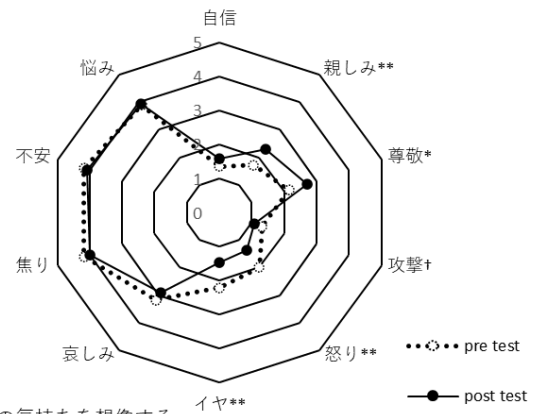


fig2. 保育士の気持ちを想像する

考察と課題

10項目を「当人の内面 - 相手への認知や感情」と「肯定 - 否定」の2次元で分類し、グラフ化した。

変化が見られたのは、「相手への認知や感情」である。肯定的項目は上昇し、否定的項目は下降した。架空の事例を用いて学生に考えさせ、場面を役割演技する授業に、効果があったと考えられる。

「当人の内面」の否定的項目は、対象が母親と保育士ともに、高いままである。また、保育士の内面「自信」は、事前1.35点から事後1.57と低いままであった。1点は「違う」であるから「保育士は自信がない」と評価した学生がほとんどであったことになる。学生は、今回の場面を「悩みと不安がいっぱいの母親を自信がない保育士が対応している」と捉えている可能性が考えられる。対象学生は1年生である。しかし、ほんの1~2年で保育士、幼稚園教諭として同じような心理状態で現場に立つ可能性を考えると、痛々しく思えてくる。養成段階の授業で、現場の雰囲気疑似体験する機会が必要であると、強く感じる。

参考文献等

厚生労働省 hp. 調査報告書「保育士の現状と主な取組」

保育ナレッジ hp. 「保育士を辞めた理由」

手ぶら登園保育コラム hp. 「保育士1年目で悩んだこと」

津江美和(2021)「社会人ギャップへの予想」学校心理士会